

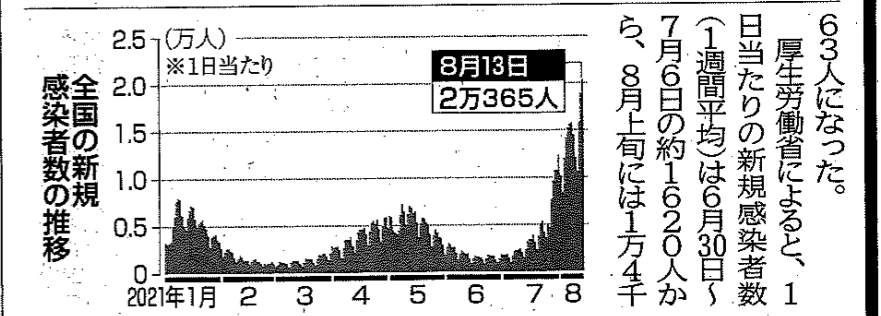
# 国内感染2万人超

## 重症者も最多1478人

関連記事

国内で13日、新たに確認された新型コロナウイルス感染者が初めて2万人を超え、最多を更新した。全国の重症者数も前日から74人増えて1478人（12日時点）となり、5月25日の1413人を超えて過去最多。連日の記録更新で流行第5波の出口は見えず、医療現場は危機的な状況に追い込まれている。（3面に

国内で13日、新たに確認された新型コロナウイルス感染者が初めて2万人を超え、最多を更新した。全国の重症者数も前日から74人増えて1478人（12日時点）となり、5月25日の1413人を超えて過去最多。連日の記録更新で流行第5波の出口は見えず、医療現場は危機的な状況に追い込まれている。（3面に



63人になった。厚生労働省によると、1日当たりの新規感染者数（1週間平均）は6月30日から7月6日の約16200人から、8月上旬には1万4千

人超と10倍近くになった。全国の重症者は人工呼吸器、人工心肺装置ECMO（エクモ）を用いている人や、集中治療室（ICU）に入っている人。特に40〜50代で増えている。全国の直近1週間の感染者数（10日現在）は、その

前週の1.33倍。1.27倍だった首都圏以外での増加が目立つ傾向で、専門家からも「感染拡大が続く可能性が高い」（脇田隆幸・国立感染症研究所長）「お盆の影響を考えると予断を許さない」（西浦博京都大教授）との声が相次いだ。

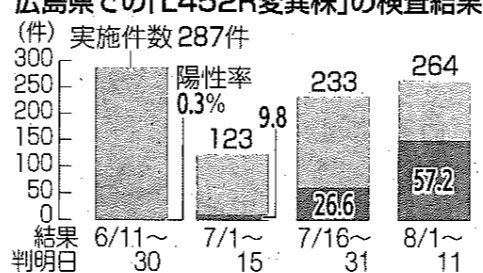
R3. 8. 17  
花園保育園

# デルタ株置き換え進行

## 広島県専門家感染増に警鐘

新型コロナウイルスの由来から感染力が強い「デルタ株」への置き換えが、広島県でも急速に進んでいる。県は13日、デルタ株が疑われる「L452R変異株」の抽出検査の結果を公表。11日では、感染者に占める割合が57.2%だった。7月から急激に上昇しており、専門家は「さらに比率が高まり、感染者が増える恐れがある」と警鐘を鳴らしている。

今回は感染者264人の検体を調べ、うち151人がL452R変異株と判明した。抽出検査を始めた6



月には陽性が1件（0.3%）にとどまったが、7月前期の陽性率は9.8%、後期は26.6%と上昇。今回は前回調査（7月16〜31日）に比べ、30.6%も上回った。

ゲノム解析の結果、デルタ株と確定した人数も増えている。13日時点の県内の累積は79人。17日だった7月30日時点に比べ、62人も増えた。

広島大学院の坂口剛正教授（ウイルス学）は「細胞を使った実験でも、インド由来のデルタ株の感染力の強さは明らかだ」と強調。水ぼうそうの感染力に匹敵するとの指摘もあるという。

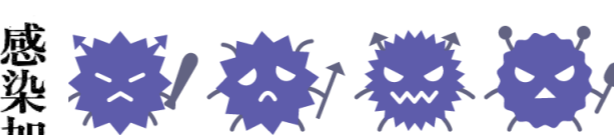
首都圏では主流になり、国立感染症研究所は今月上旬時点でデルタ株の占める割合が関東地方で90%以上、関西地方で約80%に上ると推定。現在の爆発的な感染拡大の大きな要因になっていると分析している。

坂口教授は「県内でもデルタ株への置き換えがさらに進むだろう。夏休みシーズンだが、感染拡大を防ぐには人の流れを抑えるしかない」と注意を呼び掛けている。（田中美千子）

症状が悪化しやすいのは、発症から1週間前後。日本プライマリ・ケア連合学会の大橋博樹副理事長は、特に呼吸に注目してほしいという。

「トイレなど、少し動いただけで息切れするようなら要注意」。水分は1日に1.5リットルは摂取したいが、せきが続いて飲みにくくなる場合がある。また、胸が痛む、唇が紫色になる、脈が乱れるなども警戒すべき症状。

高齢者など重症化リスクが高い家族がいる場合について、大橋さんは「家族がワクチン接種を完了していれば、対策を徹底した上で同居の継続は可能」と話す。未接種だったり、認知症で対策が難しくかったりする際は「ショートステイの活用やホテルの宿泊など、リスクが高い人が避難することもある」とも考えてほしいとしている。



WHO ワクチン低所得国に

【ワシントン＝船越翔】米ジョンズ・ホプキンス大学の集計によると、新型コロナウイルスの世界の累計感染者数が4日、2億人を突破した。インド由来の変異ウイルス「デルタ株」の流行で感染ペースが加速しており、世界保健機関（WHO）は、低所得国にワクチンを優先供給するよう求められている。

累計感染者数は1月下旬に1億人を超え、その後半年余りで倍増した。死者数は約425万人に上る。国別では米国が最多の約3530万人で、インド約3180万人、ブラジル約2000万人と続く。ロイター通信は、世界人口の少なくとも2.6%が感染したことを伝えた。ワクチン接種が進んでいる欧米でもデルタ株の流行が進んでおり、各国は規制の強化を迫られている。イスラエルやドイツは3回目のワクチン接種実施を発表し、英国や他の欧

河野太郎行政改革担当相は5日の記者会見で、米ファイザー製新型コロナウイルスワクチンについて、47都道府県に配送する数量を発表した。10月上旬までの配送で、12歳以上の接種対象者の8割分に達するという。同社から輸入される7〜9月分の7千万回分が7600万回分に増えることも明らかにした。政府筋によくと、同社側に要請して

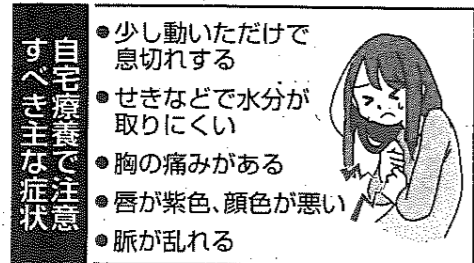
7〜9月分の輸入増については「菅義偉首相とアルバート・ブーラ最高経営責任者（CEO）が会談するなど、ファイザー社と良い関係を構築している」と説明した。

首相は7月23日、東京・元赤坂の迎賓館でブーラ氏と面会し、10月以降に予定している供給分の前倒しを求めている。

一方で、これまで「最適」としてきた全国で1日120万回の接種ペースが、今後、落ちていくとの見通しを示した。若い世代の接種率低下が見込まれ「接種率の高い高齢者接種と同じペースというわけにはいかない」と語った。

# コロナ自宅療養の注意点

## 息苦しき 異変のサイン



※厚生労働省の資料や取材による

- 自宅療養で注意すべき主な症状
- 少し動いただけで息切れする
  - せきなどで水分が取りにくい
  - 胸の痛みがある
  - 唇が紫色、顔色が悪い
  - 脈が乱れる

## 発症1週間前後 悪化しやすく

新型コロナウイルスの爆発的な拡大で自宅療養となる人が増えている。懸念されるのが容体の急変だ。専門家が注意すべき症状の第一に挙げるのが「息苦しき」。家庭内感染を防ぐには、療養者も家族もマスクを着けることが重要となる。

症状が悪化しやすいのは、発症から1週間前後。日本プライマリ・ケア連合学会の大橋博樹副理事長は、特に呼吸に注目してほしいという。

「トイレなど、少し動いただけで息切れするようなら要注意」。水分は1日に1.5リットルは摂取したいが、せきが続いて飲みにくくなる場合がある。また、胸が痛む、唇が紫色になる、脈が乱れるなども警戒すべき症状。

高齢者など重症化リスクが高い家族がいる場合について、大橋さんは「家族がワクチン接種を完了していれば、対策を徹底した上で同居の継続は可能」と話す。未接種だったり、認知症で対策が難しくかったりする際は「ショートステイの活用やホテルの宿泊など、リスクが高い人が避難することもある」とも考えてほしいとしている。

## 接種対象者の8割分 10月上旬までに配送

### 12歳以上ファイザー製

河野太郎行政改革担当相は5日の記者会見で、米ファイザー製新型コロナウイルスワクチンについて、47都道府県に配送する数量を発表した。10月上旬までの配送で、12歳以上の接種対象者の8割分に達するという。同社から輸入される7〜9月分の7千万回分が7600万回分に増えることも明らかにした。政府筋によくと、同社側に要請して

## 感染加速 世界2億人超

WHO ワクチン低所得国に

【ワシントン＝船越翔】米ジョンズ・ホプキンス大学の集計によると、新型コロナウイルスの世界の累計感染者数が4日、2億人を突破した。インド由来の変異ウイルス「デルタ株」の流行で感染ペースが加速しており、世界保健機関（WHO）は、低所得国にワクチンを優先供給するよう求められている。

累計感染者数は1月下旬に1億人を超え、その後半年余りで倍増した。死者数は約425万人に上る。国別では米国が最多の約3530万人で、インド約3180万人、ブラジル約2000万人と続く。ロイター通信は、世界人口の少なくとも2.6%が感染したことを伝えた。ワクチン接種が進んでいる欧米でもデルタ株の流行が進んでおり、各国は規制の強化を迫られている。イスラエルやドイツは3回目のワクチン接種実施を発表し、英国や他の欧



8月園だより コロナ感染症特集 16

